

娘の麻紀の目は光を感じることが
できる程度で、音にも反応する
けど、どんな音かは分かっている
ようでした。それならと、目の
見えない人や耳の聞こえない人た
ちに何が困るのかというマイナ
ス面と、どういう工夫をしたら楽し
く過ごせるのかというプラス面の
両方を聞きに行きました。

△障害者から教わるという姿勢
が通じ、夢や希望、不平不満など
いろんな思いを話してくれた▽

子育てをしている視覚障害のご
夫婦と親しくなったんですけど、
頭の中に地図があって、家のどこ
に何があるかをすべて把握してい
ました。さらに、赤ちゃんが熱を
出さないか、虫に刺されてない
かということも常に体を触って
から分かると言っんですね。これ
には驚きました。

竹中 ナミ〔4〕

時代を駆ける



たけなか・なみ 社会福祉法人理
事長。62歳(写真は昨年11月、兵
庫県内で撮影。20歳から重度心身
障害で入院中の麻紀さん<車椅子
子>と＝竹中さん提供)

△能力があるのに、そうは思わ
れていない▽

「連れて死ぬ」って父に言わせ
た原因もこういうところにあるの
かなと分かりました。

△麻紀さんが4歳の時に兵庫県
西宮市北部の夫の実家に引っ越し
た▽

20軒くらいの静かな集落で、麻

紀が泣き叫ぶと響き渡るくらいで
した。家の裏にはダムがあり、散

歩に最適な土手の上に通じる獣道
を麻紀の乳母車を押しながらよく
通りました。ある日、その道に鉄

条網が張られていました。お義母
さんに聞くと、顔役のおばあさん
が「そんな子は通ってほしくない」

と言って取り付けたそうです。

障害者に苦楽を尋ねる

△古いきたりの残る田舎で、
麻紀さんのことを理解してもらう
のは容易ではなかった▽

私はよそ者だからこういうこと
をされる。それならこの人間に
なつてやろうと思いました。集落
では月1回、観音様を祭るお堂に
集まって、御詠歌を歌いながら大
きな数珠を繰ったりするんです
ね。私も大切に思ってますと知ら
せることが必要だと考えました。

千羽鶴を折り、観音様の新しい
座布団をこしらえ、鈴ひもを紅白
の新しいものに替えました。する
と鉄条網を取り払い、「麻紀ちゃ
んに」と白菜やお餅も持ってきて
くれたんです。自分が大切にして
いるものを侵さないと分かれば、
人は心を開いてくれると改めて実
感しました。